



リスクマネジメント

リスクマネジメント・内部統制システムに関するJR西日本グループの考え方

JR西日本グループでは、「長期ビジョン」「中期経営計画2025」のもと、新たな価値創造へ積極的に挑戦していく観点から、2023年度より「全社的リスクマネジメント体制」を構築し、JR西日本グループにおける経営上、対処すべき重要リスクとその管理状況をモニタリングしています。

また、価値創造の基盤の1つである内部統制システムについても、監査等委員会設置会社に移行後のモニタリング型経営やグループ経営体制の深度化に合わせて、「基本方針」の記載事項につき、重点化・大綱化した改正を行うとともに、社内規程を新設し、各取締役の責任や具体的な取り組みの責任体制を明確化・体系化することで、内部統制システムの実効性を高めています。

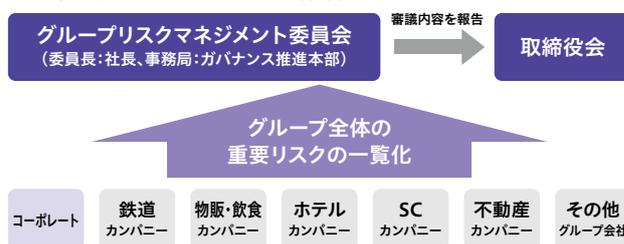
グループリスクマネジメントの取り組み

「全社的リスクマネジメント体制」では、当社内（コーポレート）の各部門およびグループ各社（カンパニーその他グループ会社）が抽出・選定したリスクのうち、経営上対処すべき重要リスクについて、代表取締役社長を委員長とする「グループリスクマネジメント委員会」において、集約・一覧化し、その管理状況をモニタリングしていく取り組みを行っています。

同委員会を通じて確認したリスク管理状況については「社長マネジメントレビュー」を実施し、必要な改善措置を講じる

など、次年度のリスク管理の取り組みに反映するとともに、委員会の議論状況を取締役に報告することとしています。

■全社的リスクマネジメント体制



危機管理の取り組み

- 自然災害、感染症、テロなどの多様化するハザードに対して、リスク事象発生時の迅速かつ適切な初動対応を構築すべく、体系化した規程・マニュアル類の整備、緊急時の情報連絡体制の構築、また定期的な訓練などを実施しています。
- 昨今の情勢を踏まえて、G7サミット等の大規模イベント時は、JR西日本グループ全体で、警戒警備体制の強化を図り、駅・列車・重要施設における「巡回強化」や、AIカメラなど最新技術を取り入れたセキュリティ対策等を実施しています。
- 事業継続計画（BCP）を策定し、危機レベルに応じて柔軟に業務執行体制の構築が可能となるように危機発生時に備えています。
- お客様の安全を脅かすリスク低減を図るべく、「食の安全」や「建築設備の安全」を推進する取り組みを実施しています。いずれの取り組みも、JR西日本グループ共通のガイドラインを策定し、グループ全体の安全、品質レベルの維持・向上を図っています。

なお、「食の安全」については、専門コンサルティング会社と連携して、日頃からの衛生管理や品質管理、内部監査の実効性向上、法令改正への対応などを行い、食中毒、健康被害、法令違反を発生させないよう取り組みを実施しています。

■G7広島サミット: 危険物探知犬による警戒警備



(写真提供: セントラル警備保障株式会社)